

まずこの過去形の名称ですが、日本では「線過去」と呼ばれることが多いようです。しかし、この名前は国外では一般的ではなく、誤解を招きやすいという意味で必ずしも適切とは言えません。しかし、すっかり定着していますので、基本的にはこの用語を使います。スペイン語では“pretérito imperfecto”「未完了過去」と呼ばれます。

さて本稿ではこの「線過去」に加えて、さらに「開過去」(pretérito abierto)と「共過去」(copretérito ベネズエラ出身の研究者 Andrés Bello の用語)という名前も使用したいと思えます。「開過去」と呼んだのはこの形式がその動作の「開始」も「終了」も明確にしない過去だからです。図で例えると、



点過去では明確に動作は完了しています。一方、線過去では完了していません。いえ、より正確に言うとは完了したかしてないか自体を明確にしない言い方です。つまり、実際には完了している場合と完了していない場合の両方があります。以下の例を見てください。

- (a) 点過去→完了:  
**Viví** dos años en Madrid para hacer un curso de doctorado.  
私は博士課程をするためにマドリッドに2年住んでいた。
- (b) 線過去→完了:  
**Vivía** dos años en Madrid, y de repente me decidí a volver a Japón.  
私はマドリッドに2年住んでいたが、突然日本へ帰ることを決めた。
- (c) 線過去→未完了:  
**Vivía** dos años en Madrid, pero me quedé un año más para acabar la tesis.  
私はマドリッドに2年住んでいたが、論文を終わらせるためにもう1年残った。

「マドリッドに2年住んだ」ことは、点過去(a)では終わったこととして表現されていますが、線過去では、(b)終わったこととして、または(c)終わってなかったこととして表されるのです。つまり、(b)では「2年」住んでいて、(c)では「3年」住んだことになります。

さて、線過去の基本的意味はわかりましたが具体的にはどのように使用されるのでしょうか。いくつかの用法に分けて説明します。1つ目として「継続」を挙げます。動作が「未完了」ということは、ひっくり返して言えば「継続中」であるということです。更に個別的に言うと、まず、線過去は「状況説明」に適していると言うことです。過去の「描写」と言ってもよいでしょう(物語などでよく使われます)。

**Era** una noche oscura. Ya **no había** nadie en la calle.  
**Yo caminaba** despacio con las manos en los bolsillos. ....  
暗い夜だった。通りには誰もいなかった。  
僕はポケットに手を入れてゆっくり歩いていた。.....

先ほど線過去を「共過去」と呼びましたが、実際、別の過去と共に使われることが多いのです。組む相手が点過去の場合と他の線過去の場合の2例を挙げます。前者(線過去+点過去)の組み合わせで線過去は点過去の「バックグラウンド」を表しています。

Anoche cuando yo **estudiaba** en mi habitación, me **llamó** una amiga.  
部屋で勉強していたとき友達から電話があった。

次の例では(線過去+線過去)で2つの動作が平行して進行していることを表しています(「平行進行」)。

Mientras yo **cocinaba**, ella **veía** la tele en el salón.  
僕が料理をしている間、彼女は居間でテレビを見ていた。

別の過去との共存はdecir que...等、主節の動詞とのケースもあります。例を見てください。

- d) Lucía me **dice** que **tiene** muchos exámenes.  
ルシアはたくさん試験があると言う。
- e) Lucía me **dijo** que **tenía** muchos exámenes.  
ルシアはたくさん試験があると言った。

(d)のdiceを過去形dijoにすると時制の一致で自動的にtieneはteníaと線過去になります。teníaは別の過去dijoと共にあり、その時点における現在なのです。つまり、線過去は「過去における現在」であると言えます。

2つ目の用法は「習慣(反復)」です。

Quando era niño, yo **jugaba** al fútbol todos los domingos.  
子どもの頃、僕は毎日日曜サッカーをしたものだ。

習慣の用法の場合は、「頻度」(todos los días, por las mañanas, siempre, habitualmente)や「思い出」(antes, de niño, en mi juventud)の副詞句等を伴うことが多いです。

En mi juventud aún nadie **tenía** móvil, por eso **llegábamos** temprano a las citas.  
私の青春時代にはまだ誰も携帯を持っていなかったため、約束には早く着いたものだ。

最初に説明したように線過去は始まりも終わりもはっきりしない過去です。今度は始まりがはっきりしない用法を見てみましょう。つまり、ある動作が始まっているか始まっていないのかがぼんやりしています。そこから「未遂」の意味が生じます。

Quando ya **despegaba** el avión, el piloto encontró una avería grave y canceló el vuelo.  
飛行機がもう離陸しようとしたとき、パイロットは重大な故障に気づき、飛行をキャンセルした。

この例文では実際に飛行機は離陸していたのでしょうか。「しようとしていた」、「する直前」だったのです。「離陸未遂」ですね。

ここまで見てきた用法をまとめてみましょう。

1. 継続
  - a) 状況説明  
**Era** una noche oscura.
  - b) バックグラウンド(線過去+点過去)  
Quando yo **estudiaba**, me llamó una amiga.
  - c) 平行進行(線過去+線過去)  
Mientras yo **cocinaba**, ella veía la tele.
  - d) 過去の現在(主節+線過去)  
Lucía me dijo que **tenía** muchos exámenes.
2. 習慣(反復)  
Quando era niño, yo **jugaba** al fútbol todos los domingos.
3. 未遂  
Quando ya **despegaba** el avión, el piloto encontró una avería grave y ...

紙面が尽きたので今回はこれくらいで。後半は次号で扱います。とりあえずはここまでをよく理解してください。¡Hasta la vista!



仲井 邦佳 なかいくによし / Kuniyoshi Nakai  
立命館大学産業社会学部教授。京都イスパニア学研究会会長。  
専門はスペイン語学。  
著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語一文法と演習』(共著、同学社)などがある。